



第6次杉戸町総合振興計画

「みんなで育てるまち すぎと ～自然とやさしさがあふれるまちへ～」の実現へ

第6次杉戸町総合振興計画 後期基本計画（令和8年度～12年度）が始まります。

総合振興計画は、杉戸町が目指すまちの姿を描いた計画です。

子育てや教育、福祉、防災、産業、インフラなど、町のさまざまな取り組みの基本となる“道しるべ”になります。

この計画は令和3年から始まった10年間の計画で、令和8年度からは後半5年間の「後期基本計画」がスタートします。

- 未来像1** まちぐるみで子育てに関わり応援できるまち
- 未来像2** こどもたちに未来を拓く力を育むまち
- 未来像3** 生涯を通じて学び、郷土とひとに愛着を持てるまち
- 未来像4** 自らの健康を守りながら安心して暮らせるまち
- 未来像5** 地域がつながり、安全で災害に強いまち
- 未来像6** 魅力ある産業を育み、発信できるまち
- 未来像7** 機能的で自然と調和した快適なまち
- 未来像8** 持続可能な町政運営を推進するまち

計画書の閲覧は
町ホームページから



後期基本計画の新しいポイント

リーディングプロジェクト「スギトゴトプロジェクト」

後期基本計画では、計画をより効果的に進めるため、分野を横断して取り組む4つのプロジェクトを新たに設定しました。

杉戸に住む人、働く人、通う人、訪れる人など、まちに関わる「みんな」が家庭や地域、職場など様々な場所でもちにかかわり、一人ひとりがスギトのコトを自分ゴトとして「考え、行動する」ことよって、杉戸町が元気で魅力あるまち、愛着をもてるまちを目指します。

みんなで「くらしを守る」

- 老朽化するインフラの維持・管理
- 空き家対策の推進

みんなで「農業を育てる」

- 農を生かした町の魅力向上
- 農業の担い手の確保・育成

みんなで「にぎわいづくり」

- 戦略的なシティプロモーションの推進
- 市街地のにぎわいづくりの推進

みんなで「デジタルを使って便利に」

- 利用しやすいデジタル町民サービスの構築

令和8年度

まちづくりの方針

～新しい杉戸への挑戦～

2月9日(月)、令和8年第2回杉戸町議会定例会の冒頭、窪田町長は、令和8年度の施政方針と予算編成方針を表明しました。

施政方針とは、これからの町政運営における基本的な考え方と、主な施策を示すものです。施政方針の概要と、新年度に取り組む主な施策を紹介します。

※町長が表明した施政方針を、一部要約しています。

問合せ 総合政策課 政策行革担当 内線209
財政担当 内線272



はじめに、令和7年を振り返りますと、社会経済情勢の変化に的確に対応することが強く求められた一年でありました。「令和のコメ騒動」と言われる米不足の問題や、止まらない物価上昇や人手不足は、行政運営や地域経済、町民の生活など、各方面に大きな影響を与えました。また、全国各地で相次いだ豪雨や地震に加え、令和7年1月に八潮市で発生した道路陥没事故は、住民の安全を支えるインフラの老朽化対策が喫緊の課題であることを、改めて私たちに突きつける出来事でありました。こうした事案は、決して一

部の自治体だけの問題ではなく、全国の市町村が共通して直面する課題であります。本町におきましても、道路や上下水道をはじめとする社会基盤の点検・維持管理の重要性を再認識し、安全・安心な生活環境を守る責任の重さを強く感じたところでございます。当町の歩みとしましては、新たに杉戸南中学校が開校を迎えたほか、東武動物公園駅東口通り線の整備についても着実に前進を続けており、老朽化した杉戸高野台駅西口の歩道についても修繕工事が着実に進んでいる状況であります。さらに、嬉しいニュースとして、旧中央公民館と周辺エリアに令和6年オープンしたコミュニティセンター「ココティすぎと」が、令和7年度の土地活用モデル大

賞において審査委員長賞に選定されました。このような中、第6次杉戸町総合振興計画前期基本計画が令和7年度末で終了することから、令和8年度から開始する後期基本計画を策定し、厳しい財政状況の中でも新しい杉戸への挑戦を継続するため、今後5年間で特に力を入れる「リーディングプロジェクト」の呼称である「スギトゴトプロジェクト」を設定し、新たな指針をお示ししたところです。計画の策定と並行して、防災・減災対策の強化、アグリパークゆめすぎとの魅力向上、子育て支援や高齢者福祉の充実、地域医療の確保など、町民の暮らしを支える施策につきましては、着実に推進してまいりました。